

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人上島会
施設名	阪保育園
報告者（役職）	園部 浩美（園長）
住所・連絡先	大阪府枚方市牧野本町 1 丁目 10-6
	☎ 072-800-1255

○タイトル（保育計画）

日本古来の楽器・和太鼓の演奏を楽しむ

○主な助成備品

宮太鼓 2 台、平置き十字台 2 台、平太鼓 10 台、クロス型立奏台 10 台、パチ

1. 保育計画策定の目的

大阪府枚方市の公立保育所「阪保育所」の民営化により、令和 5 年 4 月より社会福祉法人上島会が「阪保育園」の運営を開始させていただくことになりました。

阪保育園では、乳幼児期を目に見えない根の部分で育てる大切な時期であると考え、子どもの気持ちが動くまで待ち、大人が子どもの育ちつつある力を支える保育を行なっているよう職員一同努めております。

地域から愛されていた公立保育所の保育内容を引き継ぐ中、特に運動会において年長児が披露する「和太鼓」の取り組みについては、子どもたちも保護者様もとても楽しみにされておりました。

公立保育所から引継いだ宮太鼓 3 台と地打ち用の締太鼓 1 台に、今回新しく購入させていただいた宮太鼓や平太鼓の音を重ねることでさらに美しい 3 種の音色を楽しみ、子どもたちの「和太鼓」への興味や関心が広がるようにとの願いから保育計画を策定いたしました。

「和太鼓」は、日本古来の楽器であり、太鼓の深い響きを身体全体で感じながら 5 歳児全員で気持ちを合わせる心地よさを味わうこと、また、子どもたちの憧れである年長児の和太鼓演奏をきっかけにして、小さい組の子どもたちにとっても、より身近で親しみやすい楽器に出会える機会となりますことを願っております。

2. 具体的な実施内容

【導入：和太鼓の音を楽しむ ～5歳児～】

令和6年2月に新園舎が完成し、お遊戯室に和太鼓用の専用倉庫を用意しました。新年度になり、お遊戯室に和太鼓を並べ、5歳児に導入をすることにしました。

初めて見る並んだピカピカの和太鼓に5歳児の子どもたちから「わぁー」と歓声が上がりましたが、『きれいで何だか大事なもの』ということを感じたようで、だれも触らず、そっと周りの様子を見ていました。

様子を見ていた保育者が、和太鼓の名前を尋ねると「おおだいこ?」「たいこ?」と、様々に答えたので、和太鼓の名前を伝え、嬉しそうに「みやだいこ、ひらだいこ、しめだいこ」と、何度も繰り返していました。

保育者が手のひらで和太鼓を打ち、「どんな音がする?」と尋ねてみると「おまつりみたい」「たのしい」「かわいい」「いぬがあるいている」と、いう反応がありました。次にバチで和太鼓を打ってみると、「かみなりさまがおこっているみたい!」「おにのおと!」「きょうりゅうがあるいてきた!」「なんだかこわくなってきた!」と、耳をふさぐ様子もありました。みんなで優しい音や強い音を楽しみ、音のイメージを話しあううちに、「わたしもやってみたい!」と、言う子どもが出てきて、和太鼓の周りを囲んだ子どもたちの手が、太鼓をそっと打ち始めました。最初は遠慮気味に、次第に大胆に、それぞれのイメージを楽しみながら、打てば響く心地よさを楽しみました。

【実践：保育室の工夫】

5歳児クラスでは、洗面器にテープを貼った手作り太鼓とクリアファイルを丸めたバチがおもちゃコーナーに追加されました。自由遊びの時間に、お友だちと一緒に遊ぶ姿が見られました。担任が簡単な楽譜を用意したことで更に盛り上がり、子どもたちは歌いながらリズムをどんどん覚えていきました。



【実践：バチで打つ前のお約束】

実際に本物のバチを渡して、和太鼓に触れてみるようになりました。手にとってみるとバチは長く、堅い木材でできていました。そこで、子どもたちはお約束を考えました。

「バチをだいじにします」を合い言葉に、「おとさない、ひとをたたかない、ふりまわさない、ゆかをたたかない、バチもがつき、バチがいたがる」と、決めました。

【実践：バチで打つ】

いよいよ、バチで太鼓を打ちました。太鼓によって音が違うこと、打ち方によって音が変わること、打つ場所によって音が違うことに気づきました。そんな中、みんなが好きなように打つと大きな音がいっぱい自分の音が聞こえないことに気づき困った子どもが声を上げました。「さあ、どうしたらいいのかな？」

「じゅんばんにうったらいい」「かけごえしたらいい」「うたってたたく」「みんなでせーのっていう」等、色々と考えて、やってみることにしました。

【実践：かけ声を考える】

実際、みんなで同じ言葉を言いながら打つと、初めて音が揃いました。揃うととっても心地よく、何回もくりかえし皆で打つことが楽しくなりました。運動会で披露することを目標にして、動きやふりを考えて取り組みました。

【実践：運動会】

運動会予行や練習では、小さいクラスの子どもたちが見学に来ては、楽しそうに打つ5歳児クラスの姿に憧れの気持ちを抱き、覚えたリズムを口々に口ずさみながら太鼓を打つまねっこ遊びを楽しむ姿が増えました。

いよいよ、運動会です。地打ちの担任を最後列に配置し、後ろから聞こえるリズムに合わせて、子どもたちは前を向いて和太鼓演奏を行ないました。自信に満ちた表情で、和太鼓を打つ子どもたちの姿は、たくさんの拍手と感動に包まれました。

【実践：運動会を終えて 運動会ごっこ】

運動会を終え、4歳児クラスの子どもたちからのリクエストがあり、一緒に和太鼓を楽しむことになりました。5歳児がバチの持ち方を伝え、前に立ち見本を見せる子、手を取り一緒に打つ子、かけ声をかける子など、優しく伝え、一緒に楽しむ姿がありました。

また、見学に来ていた乳児クラスの子どもたちも、大きな太鼓の音に興味津々で、両手を広げて太鼓を手で打つ様子も見られました。保育園のあちらこちらのクラスで、5歳児クラスの「ニンジャでドン！」の歌声や動きが大流行しました。



3. その成果と評価

以上の活動を通して、「和太鼓」という日本古来の楽器に親しみをもつことができ、また、和太鼓は打ち手の打ち方に合わせた音色が響くことを知り、楽しみ、美しさを求めて考え、皆で気持ちを合わせることの心地よさを味わうことができました。

また、「和太鼓」は、0歳児でも打てば響く扱いやすい楽器ではありますが、とても高価な伝統楽器です。今回、子どもたちの考えた約束の中で「だいじにします」という言葉が出てきました。物があふれている現代の生活の中で、本物の美しさ、それを大切に扱うということに気付いた子どもたちの心の成長を大変嬉しく感じています。目に見えない心を育てることが保育者の楽しさであります。音楽を通して気持ちを合わせて取り組む心地よさを十分に味わえるような活動を、今後も続けていきたいと思います。



4. 今後の課題と展望

子どもたちは新園舎の生活に慣れ、のびのびと日々を過ごしております。保育者が保育を主導するのではなく、子どもと一緒に考え、答えを待つことで、子どもたちがより和太鼓に興味や関心を持ち、いつしか和太鼓は“子どもたちの大切な物”になりました。そして、子どもたちの運動会の姿をご覧になった保護者様にも取り組みの過程を丁寧に伝えてきたことで、子どもの成長を見守り支えてきたことへの感謝の言葉をいただき、一緒に喜びあうことができました。

今後も、5歳児の運動会に和太鼓を披露することを目標として、5歳児ならではの様々な話し合いや体験を積み重ねていけるように子どもたちと一緒に考え、気づき、楽しいからもっとやってみたい！と心が揺れる活動や展開を探し続けていきたいと思います。

子どもたちと保育者に、美しく素敵な体験の機会をいただきまして本当にありがとうございました。

以上